

①重点目標	a 確かな学力定着のための授業の充実 【学習】【各教科】		b 自主的な学習態度の育成 【学習】【各学年】	
②重点課題	1 授業力向上への組織的取り組みと学力各層への指導の充実		2 自主的な学習計画の作成と自学自習時間の確保	
③現状	- 学力の多層化が顕著である。 - 上位層は厚くはなく、下位層も若干名いる。 - 授業力向上についての話し合いを、研究授業や授業公開期間以外にも多く行っていきたい。		- 自学自習時間の確保が充分にできず、学習事項が定着していない生徒が少なからずいる。 - 授業態度はおおむね良好であるが、自ら必要なことを考え、計画・実行していける生徒は多くはない。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	授業および授業以外の講座を充実させ、上位層をさらに増やし、下位層をなくす。	B	知的好奇心を刺激する授業を心掛けるとともに、生徒が学習しやすい環境を構築する。	B
	これまでの経験を教科・学年で振り返り、学力向上のための取り組みを日々継続し、継承していく。	B	自学自習時間（平日「学年＋2」時間、休日「学年＋5」時間）の達成率 80 %以上。	C
	授業公開・授業研究等により、学習意欲を高める授業方法や教材開発を行い、共有を図る。	A	学年・教科で連携して、きめ細かな指導を継続する。	B
⑤具体的な取り組み	- 学力差に対応した授業展開や指導法について、教科内や教科間で研究を重ね、実践し、継承していく。 - 下位層については、情報を学年・教科で共有し、教科担任による面談や個別指導を行うなど、早期から丁寧に対応する。 - 各教科で研究授業を行い、研究協議により授業改善を行う。 1 学期は校内、2 学期は保護者や地域に公開する授業見学・研究会を実施し、多くの視点から授業を振り返り、改善する。 - SSH 事業である「授業カリキュラム開発」に、教科主任会議を活用するなど組織的に取り組み、分野融合、教科横断型の授業、主体的で協働的な学びを実現する授業方法の研究に積極的に取り組む。		- 授業中の問いかけを増やすなどして、「聞く」から「聴く」への指導を徹底する。 - 学習に対する内発的動機付けを高めるため、SSH 事業とも連携し生徒の知的好奇心を刺激する機会を増やす。 - 面談等により、生徒に応じた学習の仕方や自主的に学習しやすい時間帯（朝・放課後）および場所（教室・学成寮・養正寮・図書館）を提案し、学習習慣を確立させる。 - 自律的な学習集団育成のため、「入り口指導」や、各学期、行事等の節目における学年集会等で学習意欲を喚起し、きめ細かな取り組みを行う。	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体 そう思う の割合を表 し、()は 5 わから ないの割合を表す < >…昨年度データ	- 授業アンケート⑫（発問が適切）では 82 %の生徒が肯定的で、双方向の授業は実現していると考えられる。一方、同⑨（意欲がかき立てられる）の数字が、同⑩（分かりやすい）を上回った教科・科目数は 32 科目中 6 科目で、改善の余地がある。 - 栃高評価⑤（習熟度別授業〔数学〕） 生徒 81 % (4) 〈78(3)〉 保護者 64 % (31) 〈87(11)〉 3 年生では、模試の結果分析を活かし、各教科で時期を捉えて特別講座を開催した。 - 授業公開・授業研究・「授業カリキュラム開発」等について、積極的に情報収集を行い、各教科で意欲的に取り組んだ。		- 多くの生徒が放課後等に学校を自学自習の場として活用している。 - 栃高評価⑨（学習環境の施設・設備） 生徒 82 % (2) 〈83(2)〉 保護者 72 % (7) 〈69(0)〉 - 第 2 回学習実態調査における学習時間の達成率は、3 年生が約 3 割、1・2 年生は 1 割から 2 割程度である。 「入り口指導」により、1 年生は学習サイクルを構築できている。 - 担任による生徒個人面談や、教科担当者による面談を多く実施した。 - 栃高評価①（面談による学習アドバイス） 生徒 90 % (2) 〈89(1)〉 保護者 93 % (7) 〈98(1)〉 - 栃高評価③（長期休業期間の学習アドバイス） 生徒 86 % (2) 〈85(1)〉 保護者 79 % (16) 〈87(5)〉	
⑦学校関係者 評価	- 学力の多層化に対する細やかな取組を継続して行うとともに、授業の工夫・改善により生徒の意欲向上に繋げて欲しい。 「意欲がかき立てられる」授業の実現を目指して欲しい。		- 学習時間の確保については今後も継続した指導が必要である。 - 栃高生としてのスタイルを早く身につけさせることが重要である。 - 学習時間の確保について P T A も協力して取り組んでいきたい。	
⑧次年度への 課題	- 教科指導力向上のための今までの取り組みを継続するとともに、授業をさらに充実させる。 - 公開授業参加者が増加し活発な意見交換ができるよう努める。		- 学習時間の確保（特に日曜日の過ごし方の改善）について面談等を通して、全職員で呼びかけ徹底させる。 - 授業を充実させ、自学自習時間の確保につなげるよう努める。	

①重点目標	c 進路希望実現のための効果的な進路指導の実現 【進路】【各教科】【各学年】			
②重点課題	3 三年間を見通した進路指導計画の実践とノウハウの継承	4 模試データ分析の効果的な活用と適切な進路情報の提供		
③現状	- 全体計画を進路指導部で作成し、進路講演会や学問探究講義、卒業生との懇談会等を実施し、キャリア教育を推進するとともに、内発的動機、学習意欲の向上を目指している。 - 生徒への個別対応が重要性を増しており、時宜を得た効果的な生徒個人面談を実施するために、三年間を見通した面談の内容について共通理解を図る必要がある。		- 校内模試データによる校内ランキングの見直しや、進路指導委員会に向けての事前検討会を充実させることにより、進路指導部と担任間、および担任と生徒間の進路に関する具体的な情報のやりとりをさらに充実させる必要がある。 - 進路学習室や大掲示板の環境整備や、進路委員の活動を通して、1，2年生に対する情報提供もさらに充実させる必要がある。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	土曜講座（全員講座・希望講座）の実施形態の工夫とともに内容の充実を図る。	B	校内模試による校内ランキングの見直し、各種研究会等の適切な情報提供を通して、進路指導委員会を充実させる。	B
	LHR や総合学習、講演会等の進路関係行事の計画、実践により生徒の進路意識高揚と学習意欲向上を図る。	B	個別大学についての分析や追跡調査、分析報告会の情報を共有しそれをもとに生徒の進路希望実現に向けた指導を行う。	A
	学年や時機に応じた生徒個人面談の内容の充実など、三年間を見通した進路指導のノウハウ継承を図る。	A	「高大接続改革」に関して、入試改革に向けた準備を進めるとともに、効果的な取り組みについての研究を行う。	B
⑤具体的な取り組み	- 学力向上のために、土曜講座の実施形態（全員講座と希望講座、層別指導の組合せ）を工夫し、実態とニーズに合わせて計画・実施し、充実させるとともに外部へも発信していく。 - 多くの教員との面談を通して自己理解を深めるとともに、キャリア教育の各種取組により進路意識を高揚させ、学習意欲の向上につなげていく。 - 三年間を見通したこれまでの取組の蓄積（LHR 資料や学年独自の進路行事の実施記録、長期休業前の指導資料、各資料や行事の意義を明文化した資料など）を活用することで、LHR 以外の進路学習の機会を積極的に設定できるようにする。		- 校内ランキングの見直しを丁寧に行うとともに、事前検討会を充実させ、収集した情報を、チューター制度を活用し生徒の進路希望の実現と教職員の研修に生かしていく。 1，2年次の進路検討会を実施し、志望校等についての情報の共有を図り、低学年から進路情報の提供を充実させる。 - クラス担任からの入試制度等の進路情報の伝達や、進路学習室・大掲示板の活用や各クラス進路委員の活動を通しての恒常的な情報発信など、情報提供環境を充実させる。 「高大接続改革」に関して全職員で情報を共有し、1，2年生の取り組みに対し、学校全体での支援が行えるようにする。	
⑥評価 *栃高評価満足度 %は 1 そう思う+2 大体そう思う の割合を表し、()は 5 わからないの割合を表す < >…昨年度データ	- 栃高評価②（土曜講座の充実） 生徒 76 % (3) 〈63(5)〉 保護者 53 % (43) 〈74(18)〉 生徒の希望講座の満足度が上がったが、全員講座をニーズに合わせてさらに充実させていく必要がある。講座の実施等についての外部への情報発信に課題が残った。 - 栃高評価④（3 年間を見通した進路指導） 生徒 87 % (3) 〈89(3)〉 保護者 93 % (3) 〈96(1)〉 毎年割合が高い。特に 1 年生の割合が高い（93 % (1)）。 面談週間以外にも時宜を得た個人面談が多く行われている。		- 進路指導委員会では、個々の生徒に応じた対応やアドバイスをさらに充実させる必要がある。 - 栃高評価⑥（進路に関する情報提供） 生徒 87 % (2) 〈89(2)〉 保護者 88 % (5) 〈88(4)〉 1，2年生で 90 % 前後で、高い割合が年々安定してきており、情報の提供は充実してきている。 1，2年次の進路検討会については、志望校の検討だけでなく、次年度のクラス分けのための情報共有にも役立っている。 - 高大接続改革についての最新情報の収集と共有を継続している。	
⑦学校関係者評価	- 三年間の指導計画を生徒に確認させながら指導するとよい。 - 土曜講座の生徒の満足度が高まっていることは評価できる。保護者へは日程よりも内容の周知をお願いしたい。		- 校内ランキング作成は単なるデータの操作ではなく、指導する側の眼力を研ぎ澄ますツールであることを認識して進めて欲しい。 - 情報提供については、生徒・保護者ともに満足度が高く評価できる。	
⑧次年度への課題	- 土曜講座の全員講座については、習熟度別授業のノウハウを活かして、教材の選択や層別の開講など、学年の実態に応じてさらなる工夫をする。 - LHR に限らずクラス単位で、時機を捉えた進路指導の時間が確保できるよう工夫する。		- 進路指導委員会に向けた面談や事前検討を通して、生徒把握や個々の生徒への対応の質の向上に努める。 「高大接続改革」に伴う入試改革への対策を学校全体で着実に進める。	

①重点目標	d 主体的な学習活動による健全な教養の醸成 【図書館】		e 健康的な生活のための生活習慣の確立	【保健厚生】
②重点課題	5 図書館利用の質的な向上をめざした支援体制の整備		6 生涯を通じて心身共に健康な生活を送るための健康管理能力の育成	
③現状	・平成 26 年度には年間貸し出し数 5,000 冊越えの記録を達成したが、読書の質の向上へと重点をシフトし、平成 30 年度は 2,181 冊であった。 ・図書委員会を中心に、ビブリオバトル連続入賞、読書会の開催、図書館だよりの発行等、読書推進活動も盛んである。 ・情報センターとしての新たな使命をふまえ、利用規定が整備された。		・運動が嫌いで、すすんで体を動かす習慣のない生徒も多く、運動習慣と心身の健康との関係を理解していない生徒も多い。 ・健康的な生活習慣に関する様々な情報について、生徒が十分理解できていなかったり、インターネット等からの情報により意思決定・行動選択している場合がある。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	・年間貸し出し数 2,500 冊以上。	B	・週 3 日以上運動を実践する生徒数 80 %。	B
	・栃高ホームページ上の「図書館」ページの充実。	B	・保健委員のアイデアを取り入れた「保健だより」の発行と健康的な生活習慣の実践。	B
	・情報センターとしての利用促進と支援体制整備。	B		
⑤具体的な取り組み	・教科指導とのタイアップ、「としょあんない」等の印刷物、図書委員会活動の充実、イベント、ホームページ、展示方法の工夫等を組み合わせ、利用者の読書の質の向上を図る。 ・本校生の図書館利用の実態や目的を踏まえ、理想的かつ現実的な図書館サービス体制の整備を推進する。 ・SSH 部と連携の上、論文検索コーナーを新設する。 ・以上の取り組みを通し、年間貸し出し数 2,500 冊以上をめざす。		・授業を工夫するとともに体育的行事等で運動の楽しさやその効果を実感させ、運動を習慣化するよう指導する。 ・健康的な生活習慣に関して、教科での指導とともに「保健だより」をリニューアルしてより効果的な情報を提供し、運動・栄養・休養について正しい意思決定・行動選択ができるよう指導する。	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体 そう思う の割合を表し、 ()は 5 わからない の割合表す < >・・・昨年度データ	・図書貸出数 1,288 冊（昨年度比－ 893 冊）。 ・教員業務支援員により、館内ディスプレイが改善された。 ・図書委員会活動はビブリオバトル入賞、栃木女子高との交流進展など、意欲的に取り組み成果が得られた。 ・栃高ホームページの図書館のページをリニューアルした。 ・栃高評価⑦（生徒が自ら学ぶ取組への支援） 生徒 89 % (2) 〈86(2)〉 保護者 97 % (1) 〈95(1)〉 ・PTA のご支援により高度な図書需要にいち早く対応できている。また、OB からの寄贈の恩恵が教科学習にも及んでいる。 ・SSH 部と連携し検索用端末が導入され、運用が開始された。		・週 3 日以上運動している生徒の割合 1 年生 68 %（昨年度比－ 1 %）、2 年生 62 %（ “ － 2 %）、 3 年生 43 %（ “ ＋ 6 %）、3 学年全体 58 %（ “ ±0 %） 1・2 年生はやや低下したが 3 年生で増加し、例年同様の割合となった。 ・保健委員の活躍や養護教諭の工夫によって、「保健だより」がリニューアルされた。保健室への生徒の来室も微増し、生徒に応じた保健指導が拡充された。 ・栃高評価⑧（健康的な生活を送るための指導） 生徒 74 % (4) 〈73(5)〉 保護者 83 % (11) 〈89(4)〉	
⑦学校関係者 評価	・図書館を「情報センター」として位置づけ、検索システムを導入する等の取組は評価できる。大いに活用して欲しい。 ・読書の大切さをアピールし続けて欲しい。		・人生において健康の持つ意味は大きく、全ての根幹である健康な生活の重要性についてこれからも意識付けを続けて欲しい。 ・「保健だより」の内容が生徒・保護者の関心に合っており評価できる。	
⑧次年度への 課題	・論文検索システムを本格的に運用開始し、生徒自ら学ぶ取組への支援体制をハード、ソフトの両面から整備する。 ・利用の質の向上をめざす方針を継続・進展していく必要がある。		・保健や体育の授業を通じて、自ら運動することの重要性を理解させるとともに、その環境作りを支援する。 ・「保健だより」の内容をさらに充実させるとともに、ホームページへの掲載等を実施し、生徒の健康づくりを支援する体制を整える。	

①重点目標	f 特別活動の充実と生徒の積極的な参加への指導			【特活】
②重点課題	7 全生徒で計画的に取り組む充実した学校祭の企画と実施		8 学校行事、部活動、体験活動に全力的に取り組むための環境整備	
③現状	- 生徒が組織する学校祭実行委員会と各クラスの文化委員が中心になり、全員参加による学校祭を企画している。 - 去年は 3,000 名超の来場者数を維持できた。地域や保護者から一定の評価を得ている結果であると推察できる。 - 今後は、更なる質の向上を目指していく取り組みが必要になるものと思われる。 - 去年は実行委員から各団体に対して助言があったが、なお改善の余地がある。			- 部活動加入率も高く、移動教室、外国人との交歓会、ボストン海外研修、県庁堀清掃ボランティア、生徒会リーダー研修会といった多くの行事や体験活動に積極的である。県庁堀清掃では、栃木市役所との協力関係を再構築することができ、継続実施が確立された。 - 文武両道を掲げ多くの生徒が学校生活を送っているが、進路実現のための学習時間の確保と、部活動や生徒会活動等の様々な活動を両立していく難しさもある。
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	・クラス企画における質の向上に向けた実行委員会と文化委員及び関係職員との連携を強化する。	B	・年間を通して部活動加入率 80 %を維持する。	A
	・準備時間を確保し、校内公開の完全実施を達成する。	A	・移動教室（スキー・スノーボード）、ボストン海外研修において、リーダーシップの育成を図れるような質的向上を行う。	B
⑤具体的な取り組み	- 教職員全体で実行委員を把握できるように体制を整備する。 - 実行委員会を定例化し生徒会係職員との連携を強化する。 - クラス企画が準備段階から計画的に取組めるよう文化委員と実行委員との連携を密にするとともに、文化委員と担任との関わりを充実させ、校内公開、一般公開を成功させる。 - 実行委員会だけでなく、各種専門委員会の生徒会組織全体を機能させ、学校全体を活性化させる。 - 栃高ホームページを活用し、学校祭プログラムを事前告知し、情報発信に努める。			- 特別活動全般において、その意義を各クラスにおいて指導し、事前指導・研修の機会を設け、参加生徒がそれぞれ課題意識を明確にして活動に臨めるようにする。 - 年度初めの部活動加入率の調査と、中間及び年度末の時点での退部状況の調査を実施するとともに退部者の実態把握に努める。 - 部活動と学業の両立支援の通知を配付し、生徒や保護者に周知するとともに、部活動優先日（金曜日）を徹底する。 - 移動教室やボストン海外研修においては、リーダーシップを育成できるように活動内容を精査して、改善に努める。
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体 そう思う の割合を表 し、()は 5 わから ないの割合表す < >...昨年度データ	- 栃高評価⑩（学校祭の内容充実） 生徒 93 %(2) <91(1)> 保護者 96(3)% <96(1)> - 実行委員会、文化委員、関係職員の間で、二者間の連携は見られたが、三者による連携は十分ではなく課題が残った。 - 校内公開はほぼ完全に実施できた。			- 部活動加入率は、年度初めが 82.2 %、2 学期末の調査では 82.4 %で、80 %以上は維持できている。 - 移動教室では参加生徒が規律ある行動をとる様子が見られた。また、ボストン海外研修では、団長、副団長を中心に参加生徒が自律して行動できる体制が構築されていた。ただし、リーダー的な立場でない生徒に関しては、リーダーシップの育成が不十分であった。
⑦学校関係者評価	- かけがえのない教育機会であるとともに、外部へのアピールの絶好の機会でもある。高いレベルを目指して欲しい。 - 栃高ホームページによる情報発信を早めをお願いしたい。			- 行事や部活動は高校生活のためだけでなく将来にわたって貴重な経験であるので是非充実させて欲しい。 - 県庁堀清掃では地域との交流により生徒の充実感を高めて欲しい。
⑧次年度への課題	- PR 活動を工夫し、より多くの来場に繋げたい。 - 来校者の満足度をはかるアンケートを新規に実施し、80 %以上の評価を達成したい。 - 実行委員会、文化委員、関係職員の三者間の連携を密にするための調整を行う。			- 参加者全員についてリーダーシップおよびフォロワーシップの育成が行えるような指導内容を検討する。 - 部活動、移動教室、ボストン研修を通して、集団生活における規範意識を高める指導を行う。

①重点目標	g 規範意識と自主性の向上		【生徒指導】	
②重点課題	9 社会生活における法の遵守とマナーの向上		10 校内生活における規範意識の向上	
③現状	- 各教科やホームルーム、学校行事等において、生徒自身が安全な交通社会の主体となる指導を実践している。 - 学校生活において生徒心得等諸規定を遵守する態度を育成し、そのことが社会のルールを守る態度の育成や品位ある言動につながることを理解させ生徒指導を実践している。		- 生徒一人ひとりに存在感や達成感を与えると共に思いやりの心や規範意識を高め、豊かな人間性や社会性を育てる指導を実践している。 - 規範意識の向上や生徒心得遵守に関する指導については全職員の共通理解に基づき、その時、その場での指導を実践している。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成 C：達成できなかった。	・交通事故発生ゼロを目指す。	C	・いじめ発生ゼロを目指し、認知された場合は早期に解決する。	A
	・登下校時の苦情がなくなることを目指す。	A	・携帯電話等使用規定の違反生徒数昨年比 50 %減を目指す。	B
⑤具体的な取り組み	- 交通事故防止については、生徒自身が、被害者及び加害者にもならないことを目指し、保健の授業や交通安全講話、ホームルームでの注意喚起など、教育活動全体を通して指導する。 - 教職員、生徒会交通委員や PTA が街頭指導等を含む交通指導を行い、他の模範となるような行動を目指させる。		- 生徒同士がお互いの特性を認め合い好ましい人間関係を築き、いじめが起こりにくい集団づくりの指導をする。 - 定期的に学年主任、各部長間で不適応傾向の生徒について情報交換を行い、職員間での情報共有と迅速な対応に努め、必要に応じてカウンセリングを有効に活用する。 「生活アンケート」や「QU テスト」の実施とその結果の効果的な活用により、いじめや学級集団の状況把握に努める。 - 携帯電話等使用規定をはじめとする校内規定の遵守については、内面的な自覚を促し、自主的にマナー向上に努めるように指導する。	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体 そう思う の割合を表 し、 ()は 5 わからない の割合を表す < >・・・昨年度データ	- 交通事故発生 6 件（昨年度比+1 件）。交通委員の活動や P T A の積極的な協力が目立ったが、自転車登下校中の事故が 4 月～8 月で 2 件発生した。 - 交通関係と通学マナーの苦情 1 件（昨年度比-1 件）。職員、生徒による定期的な街頭指導を予定通り実施できた。P T A と合同の通学路点検を実施できた。 - 栃高評価⑫（交通ルールの遵守やマナーの向上） 生徒 75 % (5) 〈78(4)〉 保護者 88 % (8) 〈92(4)〉		- いじめ発生 0 件（昨年度比-3 件）。本校のいじめ防止基本方針に基づく行動計画により、いじめの正確な認知と組織的な対応で早期に対処することができている。 - 栃高評価⑬（生徒の規範意識を高めるための指導） 生徒 81 % (4) 〈79(4)〉 保護者 95 % (3) 〈91(5)〉 - 携帯電話等規程違反 7 名指導（昨年度比-8 名）。携帯電話等の指導は減少傾向にあるが 0 に向けて更に強化したい。 - 栃高評価⑭（携帯電話等のルールの遵守と情報モラルの向上） 生徒 79 % (3) 〈79(3)〉 保護者 91 % (4) 〈89(1)〉	
⑦学校関係者 評価	- マナー遵守と交通事故ゼロを目指し継続指導をお願いしたい。 - 生徒に余裕を持った生活を送らせるためには家庭の役割も重要である。P T A でも協力できることを考えたい。		- 学校全体でいじめの早期発見と指導を継続して欲しい。 - 生徒自ら良くないことを退けられるよう指導をお願いしたい。 - 生徒・保護者ともに、指導に対する認知度が高く評価できる。	
⑧次年度への 課題	自転車通学について、交通安全のみならず、時間的余裕が持てるよう、生活全般についての指導をしていく。		- 携帯電話のマナーを徹底させながら、ネットトラブルの未然防止、早期指導について指導につとめていく。 - いじめの正確な認知と組織対応については今後も継続していく。	

①重点目標	h 環境教育への積極的な取り組み【保健厚生】		i 広報活動の充実【渉外】【教務】	
②重点課題	1 1 ゴミ・資源問題への意識の向上と学校生活環境の改善		1 2 家庭・中学校・地域社会への積極的な広報活動の展開	
③現状	・清掃や教室周辺（特にロッカー上）の整頓について、時期やクラスによって不十分な場合がある。特にテスト終了後テキスト等が散乱するケースが多い。 ・可燃ゴミと不燃ゴミとの分別回収は概ね良好であるが、故紙の再資源化への意識が不十分である。		・「PTA だより」を年2回発行している。 ・PTA 総会、PTA 支部会、学年研修会において進路指導、学習指導、生徒指導等の取組や現状についての情報を提供している。 ・PTA 評議員会を年4回開催している。 ・中学校に案内文書を発送し、依頼のあった中学校に訪問している。 ・緊急一斉メールシステムの利用が定着し、緊急連絡にアクセスするための栃高ホームページの閲覧は減少している。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	・教室周辺の清掃を徹底し、特にテスト終了後のロッカー上の整頓を徹底する。	B	・情報の共有を深めるために「PTA だより」の内容の充実を図る。	B
	・リサイクル活動を通してゴミの分別を推進し、故紙の回収量について月平均 1,000kg 以上を目指す。	B	・中学校の教職員、生徒、保護者を対象とした学校説明を目的とした中学校訪問校数 20 校。	B
			・栃高ホームページの月間アクセス数 25,000 件。	B
⑤具体的な取り組み	・環境美化委員を中心に、定期テスト後に教室周辺の学習環境をチェックする。生徒指導部とも連携してロッカー上の私物散乱等の指摘をゼロにする。 ・ゴミ分別と故紙回収を推進するため、分別等の表示や掲示を工夫しより再資源化についての意識を高めさせ、故紙回収の量を増加させる。		・「PTA だより」に会員の声や校内の様子をより多く掲載できるよう検討する。 ・中学校の教職員を対象とした情報交換を兼ねた訪問と、生徒・保護者を対象とした栃高の説明を目的とした訪問を実施する。 ・新任教員を中心に栃高ホームページの更新方法の講習会を実施し、発信内容の充実を図る。	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体 そう思う の割合を表し、 ()は 5 わからない の割合を表す < >・・・昨年度データ	・生徒の清掃状況について、教室中は教員の指導等もあり改善しているが、廊下や階段などは目が届きにくく不十分な箇所があった。テスト後については、一部ロッカー上にプリントが散乱しているクラスがあった。 ・ゴミの分別については、教室内では意識が向上されてきたが、自動販売機周辺では表示の不備等もあり、不十分な点があった。故紙については、月あたり 804kg で昨年度より減少した。クラスにより回収ボックスの設置状況に差があり、課題が残った。 ・栃高評価⑮（環境美化、ゴミ減量化、リサイクル運動推進） 生徒 62 % (7) 〈59(6)〉 保護者 56 % (36) 〈62(22)〉		・保護者に校内の様子がより伝わるよう、「PTA だより」の記事の内容や掲載する写真を工夫した。 ・栃高評価⑰（家庭や地域社会への情報発信） 生徒 78 % (8) 〈81(6)〉 保護者 88 % (4) 〈95(1)〉 ・中学校からの訪問の依頼は 14 校であったが、外部会場での学校説明会や一日体験学習は好評であり、中学生や保護者への情報の発信を十分行うことができた。管理職による中学校訪問も実施した。 ・栃高ホームページの月間アクセス数は 23,054 件であった。更新方法の講習会は例年通り実施した。	
⑦学校関係者評価	・日々の意識付けを行うとともに、生徒一人一人が行動することができるよう指導を継続して欲しい。		・栃高に魅力を感じてもらえるような工夫をお願いしたい。 ・栃高ホームページは年間の掲載計画を作成するなど定期的な更新をお願いしたい。	
⑧次年度への課題	・清掃活動を通じて、環境を整えることも学習効率向上に必要なことを理解させる。 ・故紙回収について、ゴミの減量化と再資源化につながることを理解させ、各教室に常時回収ボックスを置くよう指導する。		・次年度も継続して「PTA だより」の内容充実に努める。 ・次年度も様々な機会を捉えて、中学生へはもちろん、本校入学を希望する中学生の保護者へも適切な情報発信を行っていく。	

①重点目標	j 国際社会で活躍できる有為な人材の育成 【SSH】	
②重点課題	1 3 課題研究指導方法の確立	
③現状	- 生徒同士の相互評価とループリックを用いた議論を通して、生徒の個人研究が実現できており、昨年度は全員が「SSH 生徒研究発表会」において発表することができた。 - 研究テーマの設定は主体的に行われているが、テーマの絞り込みによっては、調べ学習に近い作品となっているものも散見される。	
④達成目標 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	課題研究のテーマ設定と研究計画書の作成までの指導を充実させる。	B
	課題研究の外部発表件数を増加させる。	C
	年度末実施の「SSH 生徒研究発表会」への留学生を含めた外部からの参加者を増加させる。	A
⑤具体的な取り組み	- テーマ設定と研究計画書作成までの指導体制を一新する。 - 図書館部とタイアップして文献の検索や閲覧に関する仕組みを構築する。 - 外部発表の場を模索し、積極的に斡旋する。 「SSH 生徒研究成果発表会」への見学参加、発表参加、TA としての参加などを、早期から広く呼びかける。	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体 そう思う の割合を表 し、 ()は 5 わからない の割合表す < >・・・昨年度データ	- テーマ設定に関する講座の充実と、課題研究計画書を添削する体制を充実させた。テーマを絞りきれない生徒への個別指導も充実させた。 - 図書館に文献検索用端末を設置した。 - ゼミ担当教員用のパフォーマンス評価ループリックを一新した。 - SSH クラブの外部発表件数は増加したものの、課題研究の外部発表件数は 0 件である。 「SSH 生徒研究成果発表会」への外部からの参加者数は 253 名（昨年度比 + 26 名）であった。	
⑦学校関係者評価	新たな課題やその解決に向かう姿勢等、人材育成のための有意義な活動として、今後の発展を期待したい。	
⑧次年度への課題	- ゼミ担当教員用の評価用ループリックの改善を通して、教員の生徒への関わり方を改善する。 - 課題研究の外部発表の機会についての情報収集に努める。 - 発表要旨の英訳を実施し、国際性育成の一助とする。	